

委員会報告

離床チーム連携の立ち上げと連携のコツ

離床推進ファシリテーター E-MATグループ

中村 昌孝¹⁾ 篠原 史都²⁾ 木本 祐太³⁾ 馬場 健太⁴⁾ 原田 真二⁵⁾

¹⁾守谷慶友病院 ²⁾藤田医科大学病院 ³⁾近畿大学病院 ⁴⁾公立藤岡総合病院 ⁵⁾大和成和病院

離床チーム立ち上げのコツ

離床チーム立ち上げのコツは、離床に対する共通認識とチームを維持していくための施設メリットの提示です。チームを運用していくには、離床に対しての共通認識を得ることが重要であり、多職種との話し合いが必要不可欠です。当院では、リハビリで離床が進んでも、離床している時間の拡大が少ない状況であったため、離床時間の拡大が必要ということを共通認識出来るようにしました。その他に工夫した点は、チームの活動が診療報酬に直接結びつきませんが、例えば離床により在院日数の減少、ベッドの稼働率や回転率が上がり、全体の収益に貢献できるなどのメリットを伝えるようにしました。

4 施設におけるチーム連携の実例

【離床チーム結成のハードルを下げるコツ】

チーム結成のハードルを下げるコツは、病棟単位で離床チームを作ることです。病棟単位で活動することで細やかなコミュニケーションが図れ、小回りの利いたチーム運営が可能なのでお勧めです。

【カンファレンスの負担を軽くするコツ】

毎日5～10分程度のウォーキングカンファ（いわゆる立ち話 写真1）を行いセラピストと看護師間で情報共有を図っています。当院は緊急手術も多く、関係職種が一同に会してカンファレンスを行う事が難しいですが、この方法にしてからは、負担なく継続できています。



写真1 ウォーキングカンファレンスの様子

【多職種協同をするコツ】

体位交換やケアを看護師と共にやるようにしています。一緒に体位交換を行うことで看護師、療法士双方の視点で体位管理について議論する場となり、多職種で一貫した管理ができます。また、一緒にケアを行うことで、患者の「できること」を多職種で共有することができます。ケアは看護師、リハビリは療法士ではなく、その垣根を越えて、双方が協力し合える環境こそが多職種連携の理想形だと感じています。

【患者さんや家族を巻き込む工夫】

患者家族さんにもわかりやすいよう、「歩いて帰る」など、一言紙に書いて掲示して、ゴールを共有するようにしています（写真2）。視覚的に目標やゴールを共有することで、ご家族から患者さんへの勇気や意欲付けに効果があり、離床時間延長につながった経験があります。



写真2 離床ゴールの掲示

【最後に】

離床チームといっても、施設によって様々なスタイルがあるということがご理解いただけたのではないのでしょうか。各職種が負担に感じないように、上記を参考に施設にあった形でチーム連携を始めてみてはいかがでしょうか。

E-MATは、日本離床学会ホームページ「学会プロジェクト」→「チーム連携」より無料で登録可能です。多くの施設からの申請をお待ちしております。